



さざえなりかぶと
「栄螺形兜」 16世紀後半／鉢高34cm 最径20cm 三河武士のやかた家康館蔵

2003年は江戸開府400年で、岡崎市ではそれに関連するイベントを予定しております。さて、本作品は主君徳川家康を支え天下をとらせた三河武士を物語る貴重な資料です。岡崎藩士の多門家伝来品で、箱書きによると多門信倍（現岡崎市大平出身）が三方原合戦の勲功により家康から拝領し、長篠合戦では信倍の長男伝十郎がこの兜を着用し活躍したと伝えられる兜です。

目 次

● 第27回東海三県博物館協会研修会	2
● 「平成14年度部門別研修会」の報告について	3
・美術部門研修会		
・自然科学部門研修会		
・歴史民俗部門研修会		
● 愛知県博物館等職員研修会	7
● 子どもと博物館研究企画事業について	8

第27回東海三県博物館協会研修会

東海三県博物館協会研修会が、10月24日・25日の2日間、産業技術記念館（名古屋市西区則武新町四丁目1-35）で開催し、愛知・岐阜・三重県の協会加盟館から64名が参加した。

1日目は、「参加体験型展示・事業の現状と展望」をテーマに、3つの事例発表と愛知県博物館協会加盟館による参加・体験型のブースが出展し、質疑・意見交換を行った。

主な内容は次のとおり

＜事例発表1＞

財博物館明治村館長 飯田 喜四郎 氏

- ①従来は、建物の外観しか見れなかつたのを、各建物内部の開放を図ることに方向転換を図ったことにより、内部での様々な参加・体験型イベント企画が可能になった。
・「書画コンテスト」「写真コンテスト」「映画上映」他
②また、夜間の開館とライトアップ、浴衣の来館者の入場料無料、乗り物博覧会などのアイデア採用



事例発表

＜事例発表2＞

岐阜県博物館学芸員 説田 健一 氏

鳥の特別展で、はく製標本が来館者に与える悪いイメージを少しでも軽減する工夫と、子供達により関心を持ってもらうための参加・体験型企画を実施

- ①はく製に触る機会を多く
- ②骨の重さ体験
- ③バーコードで鳥の鳴き声が聞ける

④bingoゲームシートの作成・体験

⑤印象に残った絵を描いてもらい掲示

(子供達へのアンケート記入は難しいため、絵を描いてもらうことにより、何に興味を持ったかを知ることができる)

＜事例発表3＞

亀山市歴史博物館主査兼学芸員 小林 秀樹 氏

参加・体験型展示とし、それらを廻りながら調査ノートに体験結果を記入していく方法を導入

①掛け軸の壁掛け・取り外し

②桃灯の伸び縮み観察

③昔の単位→現在の数値に換算

④和傘を雨の日にさしてもらう

⑤丸葉作り

⑥展示担当者によるショー（照明を消して行灯の仕組みなどを説明）

＜参加・体験型ブース出展＆情報交換＞

愛知県博物館協会加盟館から、過去実施したものや日頃実施している中で、参加者に大変好評だった参加・体験型のブース20展が出演された。

会場内は、短い時間の中、質問や情報・意見交換が活発に交わされていた。



実験体験ブース

また2日目は、産業技術記念館とノリタケの森クラフトセンターを見学し、視野拡大を図っていた。

今回の研修会では、参加・体験型の導入の重要性を改めて認識すると同時に、まだまだ、知恵を出せばアイデアが眠っているのだという希望を持った2日間でした。

（でんきの科学館 喜田 幸男）

「平成14年度部門別研修会」の報告

<美術部門研修会>

日 時 平成15年1月18日(土)
会 場 名古屋市美術館 2階講堂
参加者数 30人(加盟館職員および一般聴衆)
テ マ ダーナ・ウエルトン女史
(名古屋アメリカンセンター館長・
駐名古屋米国領事)を迎えてのイン
タビュー『応援してます! 日米
の美術館と私』



講師は日本語にご堪能で東洋の美術、歴史、文化にも深い造詣がある。ニューヨークのメトロポリタン美術館の東洋部で学芸員としての経歴もある。専門は浮世絵。外交官として日米の文化交流や博物館・美術館支援も職務の一つ。日米の美術館の違い、民間企業やメトロポリタン美術館で勤務の豊富なご経験も伺った。殊に近年の日本経済の沈滞による美術館・博物館の活動が低迷する現状に対応するには、今後どのような教育普及活動、ボランティア制度、広報・スポンサー獲得、体験的ワークショップ経営など日本の美術館、博物館が取り組むべきかのアドバイスを伺った。約2時間の研修会で、最後には会場聴衆からの具体的な質疑応答と拍手があった。聞き手は実行委員・徳川美術館普及課長小池富雄。

【インタビュー要旨】

名古屋アメリカンセンターは名古屋駅の近くの「名古屋国際センタービル」内にある。公開

の図書館も併設され文化交流プログラムも開催している。愛知県博物館協会の会員がアメリカの博物館、美術館の情報が欲しいときには利用して欲しい。現代美術作家や展覧会の紹介、人間の交流支援など各種事業をしている。

メトロポリタン美術館も最初から巨大であったわけではない。アメリカでも郡(カウンティー)にはそれぞれ小規模な地域に密着した博物館が多い。ロサンゼルス郡立美術館は例外的な巨大館である。

AFAアメリカ美術協会という加盟1,000館を超す美術館の連合があり、年会費も集めて巡回展も企画している。小規模で展覧会企画が立てにくい館でも魅力的な展覧会が実現できる。協会で企画、借用交渉から、展示、輸送など全て責任を負う。現在、東京にも巡回している。

メトのような巨大館が成長した歴史的背景には、アメリカが移民によって作られた国であり、移民の社会教育・生涯学習の場所として地域住民の期待に応えてきたからである。もし豊田市にブラジル出身者が多ければ彼らのためにブラジル/日本の歴史・文化を学べる博物館を作ると良い。学校で学ぶより、市民教育にはふさわしい。もちろん税金の制度、寄附や贈与、さらにボランティアの仕組みもアメリカの博物館活動には有利で、日本ももっと参考にできる。

メトの名物館長トマス・ホービング著『ミイラにダンスを踊らせて』に見るようにメトにも経営沈滞の時期があった。しかし、やり手の凄腕館長が経営を立て直し活性化できた。東京都でも役人の館長から、財界人に変更される例が出てきた。館長の人選も、地域住民の意向が反映されるのが重要である。

多くの日本人は、子どもを学習塾に入れており、料金を支払っている。アメリカに日本のよ

うな学習塾は無く、学校以外に学ぶ場所として博物館はよく利用されている。日本では小中高の学校教育が土曜日は休日になった。無料で子どもたちにとって魅力に乏しいプログラムをするより、有料でも子どもを呼び込むべきである。親が子に対して身につけさせたい学習内容であれば、学習塾と同じく料金も出費してくれるし、参加者も集まるだろう。たとえばマンハッタンの歴史的建築群を散歩しながら街頭で見学し、そのまま博物館に入り講義を受けるツアーでは、郷土愛や郷土意識を育む。愛知県では鳴海の旧東海道や知多半田の町並みもすばらしい文化遺産だが、外国人や旅行者には、案内情報が乏しく残念である。

2005年の「愛知万博」にはアメリカ連邦政府としての参加ではなく、企業や自治体単位での参加である。これを契機にこの地域の魅力を発信したい。ニューヨークに来る人たちにとってメトロや美術館、博物館が大きな目的になっていると地域住民や自治体、財界でも理解がある。愛知でも徳川美術館をはじめ魅力ある材料が多いのだから旅行者のために、外国語の表示方法や、案内をもっと分かり易く適切にして欲しい。「東新町方面」と和英の案内表示があっても東新町を知らない人には、全く理解されないのだから。

(徳川美術館 小池 富雄)

<自然科学部門研修会報告>

2000万年前の森の痕跡をたずねて

平成15年2月2日、愛知県博物館協会自然科学部門研修会が実施しました。岐阜県美濃加茂市の「みのかも文化の森・市民ミュージアム」を見学後、同市内で発見された約2000万年前の化石林と、長さ20メートルの大きな珪化木、そして、その木々を埋め尽くした地層の見学し、当時の環境を想像しながら楽しみました。

巨大な珪化木は、林道から離れた林の中にあ

りました。これほど長い珪化木は日本最大でしょう。丸太が横たわっているようにしか見えず、とても化石とは思えない大木に、参加者は目を見張っていました。年輪もちゃんと残っていますが、決して燃えることのないかたい石となっています。しかも周りの木よりもずっと太いのですから不思議です。木の種類はメタセコイヤということになっていますが、定かではありません。また、この珪化木がどのようにしてできたのかも、よくわかっていない。しかし、この珪化木を含んでいる地層（蜂屋層）を見ると、雲仙や有珠山の土石流を連想する火山角レキを大量に含む岩石で、突然の火山噴火でなぎ倒され埋もれてしまった様が想像されます。埋もれた木には珪素を含んだ温泉がしみこんで、長い年月の間に石に変えたのでしょう。この地層からは、各地から珪化木が産出します。驚くべき自然の営みを感じずにはいられません。

一方、立木のまま珪化木となった化石林は、木曽川河床に露出する中村層から発見されました。こちらは幹ではなく、根の部分が切り株のように点在しています。中村層は凝灰質砂岩や泥岩から成り、大量の植物化石などとともにサイやシカなどのほ乳類化石も発見されています。火山活動の合間に広がったであろう森の様子が目に浮かぶようでした。

岐阜県とはいえ愛知県に隣接した場所に、このような貴重な自然遺産があることを知つていただき、今後の博物館活動の中で話題にしていただければ幸いです。

(名古屋市科学館 西本 昌司)

<参加者>

東浦町郷土資料館 神谷 均

弥富町歴史民俗資料館 伊藤隆彦

鳳来寺山自然科学博物館 加藤貞亨

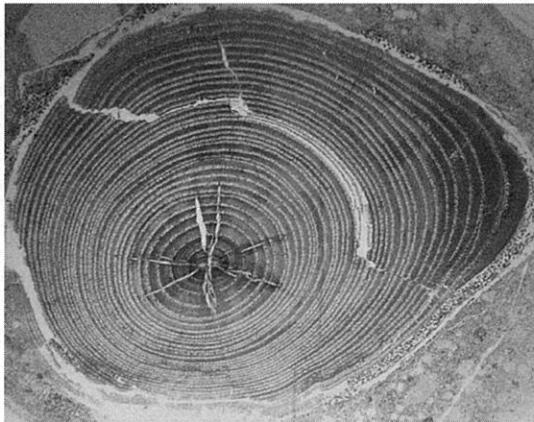
鍛造技術の館 門井春雄

県立熱田高校 三浦 博

名古屋市科学館 小塩哲朗

名古屋市科学館 西本昌司

名古屋市科学館 佐伯平二



珪化木にはっきり残る年輪（名古屋市科学館展示標本）



雪をかぶっていた巨大珪化木を見学（手前から左奥に伸びているのが珪化木）

<歴史民俗部門研修会報告>

歴史民俗部門研修会は、平成15年2月18日(火)に、豊田産業文化センターを会場にして開催されました。参加者は38名でした。

今回の研修会では、「民俗芸能」と「古文書の修復」を主題として取り上げました。主題を2本立てとしたのは、民俗分野、歴史分野それぞれの主題とそれに対する興味が、一つの研修会場で交じり合うことにより、新しい視点や交流が生まれることを期待したからです。

午前中は、豊田市郷土資料館の蟹 一夫主査に

よる講演、「熱田系神楽の庶流と源流考」が行われ、愛知県の特徴的な民俗芸能として、「熱田系神楽」が紹介されました。

「熱田系神楽」とは、蟹主査が「名古屋市の熱田地区を中心に、尾張から西三河地方にかけて分布する、女児の舞を伴う里神楽の系統の総称」と定義したものです。また熱田系神楽の舞は、神事である「巫女舞」と区別するために「みこ舞」と定義されます。

熱田系神楽は、一般的に言われる巫女神楽とは異なり、四大神楽である巫女神楽・獅子神楽・湯立神楽・神代神楽には属さない種類の神楽と考えられるそうです。

そして西三河地方の南部においては、熱田系神楽から、独自の演奏形態を持つ「朝日流」や「伏見流」、「大和流」などや、これらの流儀に属さない「宮流」あるいは「宮神楽」と呼ばれる諸流が生まれたようです。

熱田系神楽は諸流に分岐する一方で、囃子が神楽から分離し、さまざまな祭囃子のベースとなつたようです。「旧ハヤシ」や「打ハヤシ」や「チャラボコ」と呼ばれるものがその庶流にあたります。

「旧ハヤシ」は熱田系神楽の囃子が祭囃子として使われたもので、豊田市北部から奥三河にかけての矢作川沿いに残る神楽囃子がこの系統と考えられます。しかし、これらはやがて同系の「打ハヤシ」や「チャラボコ」に駆逐されてしまい、現在では内容が確認できないようです。

「打ハヤシ」は、西三河地方の南部において、熱田系神楽の囃子が変化して祭囃子となったものと考えられます。この打ハヤシに金属製の胴で作られた太鼓が導入されたものが「チャラボコ」です。現在、それぞれの市の指定無形民俗文化財となっている、碧南市の「碧南のチャラボコ」、豊田市の「古瀬間ばやし」は、このチャラボコの仲間です。また愛知県の無形民俗文化財に指定されている「中山太鼓」は打ハヤシから派生

した「打囃子」に含まれるそうです。

熱田系神楽は県内の民俗芸能に大きな影響を与えていましたが、その起源については神話の世界に隠れて、歴史的な成立は不明です。ただし伝説の中には、熱田系神楽が日本最古の民俗芸能であることを示唆するものもあるようです。講演終了後、豊田産業文化センター敷地内に移築された大正時代の町屋建築の「喜楽亭」に会場を移し、神楽とチャラボコの実演をご覧いただきました。実演は豊田地域郷土芸能研究会のご協力をいただき、神楽の知立神社神楽（知立市）、チャラボコの八草町八柱太鼓（豊田市）の曲目が演奏されました。そして最後には、早川流やぐら太鼓の実演も行われました。



チャラボコの実演風景

昼食後の研修後半は、豊田産業文化センター内に戻り、㈱芸臺 幡の桂 武雄氏による「古文書修復（漉き嵌め法）実演」が行われました。

㈱芸臺 幡は、京都市に本社を置く修復装丁を行う工房です。今回実演していただいた社長の桂氏が、従来は大型の機械・装置を用いて行っていた漉き嵌め（リーフキャスティング）を、簡易な方法で行えるように改良されました。

漉き嵌め法は、文書などの虫損や欠損部分に、材質に合わせて調合した自然素材の溶液を注入し、紙漉きと同様の方法で修復するものです。その特長は、虫損または欠損部分だけを埋め込むため、和紙が持っているやわらかい質感を損なうこともなく、紙の厚みも出ないことです。また後で再修復する場合には、漉き嵌めで補修した部分は水ではがれるそうです。

実演は漉き嵌め法だけではなく、一般的な裏打ち法から始まり、簡単な裏打ち法（道具にOHPのシートを使う方法）・簡単な繕い法・漉き嵌め法の順に行われました。このうち、簡単な裏打ち法と漉き嵌め法については、参加者が体験する機会を設けていただき、3名の参加者が古文書の修復に挑戦しました。

実演の合間に、ごく薄い和紙を張り合わせる方法や相剥ぎなどその他の修復方法や、漉き嵌め法に使う材料などについて、見本を使った説明がありました。また参加者からは、修復後の史料の保管方法や、和紙・洋紙の特徴と保管・修復の際に気をつけること、修復用の材料と防腐剤についてなどの質問がありました。それらの質問に答えながら、史料の種類・保管方法・修復の目的に合わせて修復方法を選択するなどのお話をもらっていました。



漉き嵌めの実演風景

午前と午後に一つずつの講演または実演を行った後、情報交換の時間を設け、研修の日程を終しました。今回の研修は、2日分の内容を圧縮して1日の日程で行ったことや担当者の準備不足もあり、結果的に説明不足に終わってしまった面があったことは否めません。ただ、参加していただいた方々に対しては、民俗芸能・古文書の修復についての知見を広げるきっかけにはなれたのではないかと思っています。

最後になりましたが、今回の研修会にご協力いただいた方々、そして参加していただいた方々に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

(豊田市郷土資料館 天野 博之)

平成14年度 博物館等職員研修会の報告

愛知県博物館等職員研修会を平成14年12月5日、6日に行いましたので、報告します。

1日目の会場は名古屋市博物館。テーマとして博物館における資料情報共有システムを取り上げました。収蔵資料のデータベース化やインターネットホームページを利用した広報活動は県内でも多くの館で実施されていますが、収蔵資料についてインターネットなどを通して検索可能としデータの詳細を公開する取り組みは、今のところ弱いようです。収蔵資料情報の共有に関してはいろいろな仕組みが考えられていますが、現実に一定の規模で稼働している方法として文化庁・東京国立博物館などが推進している「共通索引システム」があります。国際的にはいくつかの方法が考えられていますが、ダブリン・コアや CIDOC CRM などの紹介も期待し、次のように設定しました。

■「博物館の情報戦略：資料情報の提供と共有」

高見沢明雄 氏（東京国立博物館情報課長）

■「生涯学習における共通索引システムについて」

熊崎康文 氏（岐阜県博物館課長補佐）

■展示見学 特別展「四国霊場八十八カ所 空海と遍路文化」ほか

■情報交換会

高見沢氏からは東京国立博物館の事例をもとに、商用利用などの基本的な考え方などもお伺いしました。熊崎氏は岐阜県の実践例を詳しく紹介されましたが、各施設において独自にデータベース化が進行している中でデータベースを共通化することはとてもできない、そこで共通索引を使ったシステムが有効になるとのこと、とても刺激的なお話しでした。

2日目は例年、文化財見学会にあてています。今年は名古屋市内の研修会であり、個別にご覧になられている施設が多いと思われます。少し趣向を変え、市内中心部から名古屋港まで堀川を舟で下るプランを立てました。

最初の見学場所はUFJ銀行貨幣資料館。世界の貴重な貨幣を展示する旧東海銀行貨幣資料館が移転・改称したのですが、ギリシャ神殿風の列柱を持つ美しい建物も見ものです。

貨幣資料館を出てから、納屋橋までの間、少し遠回りして本町通りや四間道、堀川端を見て回りました。歩いた距離はおよそ3km。午後もたくさん歩きましたから、ちょっと強行軍だったかもしれません。



中区福生院（袋町のお聖天）を見学中の参加者

納屋橋にて屋形船に乗り、名古屋港ガーデン埠頭まで1時間と少し。普段とは逆に水上から岸の建物を見上げながら昼食です。

名古屋港水族館では展示飼育担当の方々から説明を受け、増築された北館を中心見学。イルカの水槽の巨大さには驚きました。

再び船に乗り、ブルーボネットへ。中部電力火力発電所敷地の一部を整備し公開した庭園です。ワイルドフラワーの自生力を生かした、素朴な自然風庭園というコンセプトです。12月という寒い時期ながら、ちゃんと咲いている花があるのですね。

以上、研修会の参加者は、1日目41名、2日目26名でした。最後になりましたが、研修会にあたり各施設において丁寧なご説明・ご案内をいただきたほか、各種の便宜をはかっていただきました。篤くお礼申し上げます。

（名古屋市博物館 田中 青樹）

子どもと博物館研究会企画事業について

「伝えるということは？～学芸員が贈る子どもたちへのメッセージ」 展覧会・ワークショップの開催

子どもと博物館研究会

平成15年1月11日(土)～2月23日(日)にかけて一宮市博物館を会場とし、子どもと博物館研究会と一宮市博物館の共同企画「伝えるということは？～学芸員が贈る子どもたちへのメッセージ」を開催した。これは展覧会と毎週日曜日に実施するワークショップから構成された。さらにこの期間以外に、愛知県陶磁資料館、鳳来寺山自然科学博物館、豊橋市美術博物館を会場にワークショップを展開した。

展覧会は、総合テーマを「伝えるということ」とし、研究会会員の担当分野である考古・民俗・歴史・自然・美術を中心に、それぞれの連関を意識しながら企画し、「伝えるということ(普及部門)」「自然と人のかかわり(自然部門)」「貝塚からわかる縄文時代の食べ物(考古部門)」「伝える手段(てだて)(歴史部門)」「現代のやきもの 作者からのメッセージ(陶芸部門)」「絵の心・絵の道具(美術部門)」「民具と話そう(民俗部門)」の7つのテーマで構成した。

毎週日曜日には民俗、考古、美術、歴史などの子ども向けワークショップを下記のとおり実施した。

会場：一宮市博物館

- 1月12日(日)「つくって遊ぼう！」(民俗)(参加者480人)——担当 久保
- 1月19日(日)「さわって、感じて、作ってみよう！」(陶芸)(参加者80人一人数制限あり)——担当 佐藤
- 1月26日(日)「おでがみ道場」「江戸時代の遊び」(歴史)(参加者197人)——担当 加藤(啓)、浅野
- 2月2日(日)「縄文になろう！」(考古)(参加者254人)——担当 岩瀬
- 2月9日(日)「いろんな絵の具をためしてみよう！」(美術)(参加者26人一人数制限あり)——担当 山田、橋本、阿野
- 2月16日(日)「おしゃべりなロープ」(参加者164人)——担当 田嶋
- 2月23日(日)「ワークショップ総集編」(総合)(参加者354人)——担当 久保

会場：愛知県陶磁資料館

- 2月9日(日)「さわって、感じて、作ってみよう！」(陶芸)(参加者24人一人数制限あり)——担当 佐藤

会場：鳳来寺山自然科学博物館

- 3月2日(日)「ひな祭りのひし餅をつくろう」(自然)(参加者25人一人数制限あり)——担当 加藤(貞)

会場：豊橋市美術博物館(豊橋市瓜郷遺跡)

- 3月23日(日)「弥生になろう」(考古)——担当 岩瀬
この企画に参画、協力したのは研究会員をはじめ以下の方々であり、参画・協力者およびその所属館に対しここに深謝の意を表する次第である。

なお、この事業は文化庁の平成14年度芸術拠点形成事業補助金を子どもと博物館研究会が受け、実施したものである。(事務局 一宮市博物館 久保禎子)

企画：浅野弘子 阿野文香 岩瀬彰利 加藤啓子
加藤貞享 久保禎子 小林弘昌 斎藤弘之
佐藤一信 鈴木理 田嶋茂典 橋本久美

藤原直子 松本育子 水野知枝

山田美佐子

協力：李 浩基 岡安雅彦 小林久彦 平岩里張

水野裕之 山崎健

資料提供：小田美紀 伊藤智子 今堀里佳

館園名：名古屋市博物館 はるひ美術館 豊橋市美術博物館 徳川美術館 凤来寺山自然科学博物館

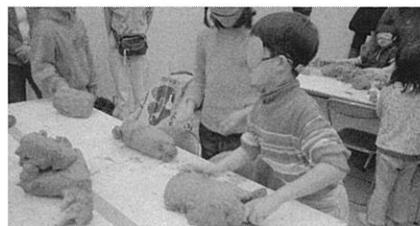
一宮市博物館 安城市歴史博物館

愛知県陶磁資料館 愛知こどもの国 高浜市やきものの里かわら美術館 豊橋市自然

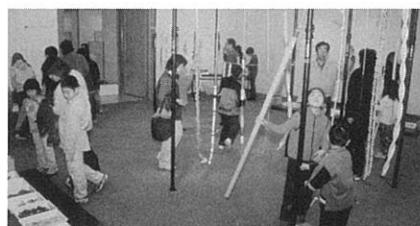
史博物館 刈谷市美術館 荒木集成館 トヨタ博物館 蒲郡市博物館



展示室のようす



「さわって、感じて、作ってみよう！」



「おしゃべりなロープ」

「愛知の博物館」 No.77

発行日 平成15年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒461-8525

名古屋市東区東桜一丁目13番2号

愛知県美術館内

TEL (052) 971-5511

FAX (052) 971-5617

<http://www.nihondisplay.co.jp/aihaku/>